

恩 信仰所 (2 / 4) : 言と行い、そして神への

:

明:イスラ ムにおける内的信仰と行いとの 。第二部: 信仰と に する 言と行いの役割とは。

目:[事崇 行 とその 実践の五ヶ条」とその他の崇 行](#)

より: J. ハ シミ (2011 IslamReligion.com)

日05 Dec 2011

集日 05 Dec 2011

言



人は、神への公な信仰宣言をしなければなりません。サタンでさえ心には信仰を秘めていましたが、かれは神への忠 を誓う宣言をするどころか、反逆と 抗を宣言したのです。したがって、ムスリムは「神以外に崇 に するものは何も い」と宣言し、この教えを いた神の 言者たちを全 信じなければなりません。

イブン タイミ ヤは、「キタ ブ アル=イ マ ン (信仰の)」においてこう述べています:

“心では信じているものの、それを口 で 言しない者は、 世と来世の双方において信仰者としてみなされない。神はそのような者を (神の) 教えにおける信仰者とはされていないのだ。それを 言として 言しない限りは、彼が信仰者とみな

されることはないのである。”

“それゆえ、口による言は信仰における必要要素であり、初期 期双方の学者たちによると、口による言をなしには救を得ることは出来ないとされているのである。そうすることが可能であるにも わらず信仰言をしない人物は、不信仰者である。その人物は内的にも外的にも不信仰者なのである。”（キタ ブ アル＝イ マ ン）

行いの重要性

心の中の信念は、果的に善行をもたらします。何かを信じているけれども、良い行いをしないということは起こり得るでしょうか？ 大学者イブン タイミ ヤはこのように述べています：

“信仰の根元は心の中にあるものであり、それが外的な行いとして れるというのは必然的なことなのである。心に信仰がありながらも、（その 果）四肢によって（善行として）行われないということは、まず考えられないことである。外的な行いが少ないのは、心の中にある信念が少ないからである…行いは心と相しているため、人が心の中の信念だけで 足することは して望ましいことではない。善行は必ずそれに付随するのである。”（アル＝ファタ ワ 、7/198）

イスラ ムは、信念と行いと の に矛盾はないと きます。むしろ、信念と行いは互いを たしあい、共に り合わさっているのです。信じていると主 しながらも、行いとしてそれを示さない人物は、善者なのです。

例えばある男性が自分の妻を しているのなら、彼は彼女に して良い待遇をするでしょう。もしその男性が、妻を し乱暴するのなら、彼が彼女を真に しているとは言えないはずで す。情は行いに れるからです。男性が自分の妻を するのなら、彼は彼女が喜ぶことをするものです。同じように、もし人が真に神を しているのなら、その人物は神への恭 性を行 によって示すでしょう。そうした人物は、神のご 悦を得るために善行を行

“正しい希望のしるしとは、良き恭 である。”（イブン アル=カイイムによる引用、2/27 28）

イブン アル=カイイム（2/27 28）は けます：

“希望には三つの が存在する。その内の二つは に し、一つは咎められるべき なる妄想である。最初の二つとは：（1） きを受けた神への服 行 をし、その を希望すること。（2）罪を犯すが悔悟し、神の赦し、恩赦、情け、 容、温和、慈しみを希望すること。（3）第三（の ）は罪を犯すこと、物事の限度を超えることに固 し、（神の慈悲を保 する）何の行 をすることもなく神の慈悲を希望することである。これは妄想であり、 なる希望的 、 った希望に ぎないのである。”

私たちは神を さなければなりません。しかし、それは心からだけではなく、行 を伴ったものでなければならないのです。— 中祈ったのであれば、それによって私たちの心には神への想起が植え付けられるでしょう。これによって、私たちは（祈りという）行 によって内的信仰が されるのを て取ることが出来ます。一方、罪深い行 は信仰を 少させます。もしある男性が不法な性行 によって— を ごしたのなら、それは彼の心に影し、彼の信仰心が 少することになるのです。善行は心の信念を しますが、 行は心を腐させます。

、神を していると主 するにも わらず、それを 明する行 をしないような人々は、 局は心に信念がなく、それを する 言も出来ず、その行 は空虚な心を反映するものでしかないので。一部の宗教の多くの人々は、これみよがしに神への を自称しますが、行 によってその主 を支えることはしません。しかしムスリムはアラビア で???

といわれる信仰宣言をしなければなりません。この は逐 的に“言”を意味し、それは神以外に崇 に するものはないことを 言することです。ただ 言のみによって 言することはごく なことです。一方、自らの身体、行 、さらには人生によって神の 光を 言することは、信念の大きな表れとなるのです。シャヒ ド（自らの生命を神に捧げる者）という言 は、シャハ ダ（信仰宣言）と同じ 根から来ているのは、神の 光を最も良く宣言するものは 言のみによるものでなく、自らの行 によるものであるからです。

